

竜の子奨学生

TATSUNOKO NEWSLETTER



Contents

- P.2 一語一会「言葉の力」
- P.3 第17回交流会レポート
- P.5 卒業生紹介
- P.7 第18回交流会レポート
- P.10 新入生紹介

その夢は、きっと世界を変えていく
The dream surely changes the world.



- P.11 竜の子近況報告
- P.14 SPECIAL INTERVIEW
- P.15 支援者のご紹介
- P.16 編集後記

第10号
Aug.2012

Akimoto Tatsunoko
International Scholarship Foundation

公益財団法人
秋元国際奨学財団

第18回交流会 (挨拶する金丹さん)

「言葉の力」

昨年12月、フランスのパリにある大学の修士課程の修了式に出席する機会がありました。その折、日本の大学の修了式や卒業式とすいぶん違うと感じたのは、とにかく皆よく話す、ということでした。日本の修了式では学長が挨拶するくらいですが、あちらでは学長の長い挨拶はもとより、司会者も来賓も修了生も、誰もかれも、とにかくよく話すのでした。50名ほどの修了生の一人一人に修了証を授与する時間も含まれていますが、修了式は2時間40分かかりました。その時、会場の椅子に腰掛けながら私が思ったのは、フランスという国は「言葉の力がまだ十分に生きている国、人々が言葉の力を信じている国なのかな」ということでした。最近の日本社会では、長く話すことが嫌われ、できるだけ短い言葉で済ます方が良いといった風潮もあって、言葉に関わる仕事をしている私としては、その風潮が大変気になっていたもので、フランスでのよくしゃべる修了式にはちょっと感動をもって出席していました。

さて、言葉と言えば、私たちはちょっとした一言で喧嘩になったり、何気ない一言が相手を傷つけたり、或いは大笑いの種になったりすることを日々経験していますが、以下は、ある日本人女子学生Aさんから聞いたことで、Aさんが「一つの言葉で自分は救われ、立ち直った」という話です。

Aさんは地方の女子高を卒業し、私が勤める大学に進学し、一人暮らしを始めました。しかし、間もなくして、家庭的な雰囲気の子高のクラスと違って、大学では人と人とのつながりが希薄に感じられ、一人ぼっちに思われ、夏休みに帰省した実家の温かさが身にしみて、大学に行くよりは実家にいたいと思うようになりました。そして1年生が終わる頃から大学に行かなくなり、実家に帰ってしまいました。1年半、休学し実家に閉じこもっていたそうです。その頃のことを思い出すと、ありがたかったのは母親が以前と同じように接してくれたこと、「がんばれ」とか「大学に戻れ」と一言も言わなかったことで、自分で大学に行けずに家に閉じこもっていることを周囲がどう思っているかは分かっている、そのことを母親に責められたとしたら耐えられなかっただろうと言います。大学に復学できたきっかけは、母親が買って来てくれた書物の中に「英雄は人より2秒長く勇気を持続できる人のことだ」といった内容の言葉を見つけたことだといえます。Aさんはこの言葉に励まされて、それだったら、もうちょっとがんばってもいいかなと思ったのを覚えていると回想しています。

人が何かのことで挫折し、その後、立ち直るきっかけは様々でしょうが、「言葉の力」もその一つであることはAさんの例からも間違いのないでしょう。私たちが立ち直るためには、風邪を引いた場合でも失恋してしまった場合でも、最終的には自分自身の力で立ち直るしかないのですが、立ち直りのきっかけとなるものを他の人から提供されることは大いにあることでしょう。Aさんにとっては「英雄、2秒」の言葉がその一つでした。そしてまた、Aさんに温かく寄り添ってくれたお母さんの、以前と変わらない言葉もまた力を持った言葉であり、立ち直りを後押しする力となったのでしょう。

竜の子奨学生の皆さんは家族から遠く離れて来日し、高い志をもって勉学に励んでいます。その生活と勉学を根本のところで支えているのは、もちろん財団からの奨学支援ですが、皆さんが努力の末に獲得してきた、高度な日本語力も皆さんの生活と勉学を支えているでしょう。生活日本語、学術日本語の2つの日本語に加えて、自分や周囲の人々を励ますことのできる「励ましの日本語」も、さらに磨いてほしいと思います。私も言葉の力を信じ、できることなら日々の生活の中で、家庭でも職場でも、自分自身に向けても、そして周囲の人々に向けても、その力になれる言葉を見つけ、発せられる人間になればと願っています。

五味 政信

1952年7月5日生まれ。
東京外国語大学大学院地域研究研究科 修了。
ベトナムハノイ貿易大学、東京外国語大学附属日本語学校、東京工業大学留学生センターなどを経て、現在、一橋大学国際教育センター教授、センター長。専門は日本語教育。今冬、『ベトナム語辞典』を武蔵野大学出版会から出版予定。



「一語一会について」

竜の子奨学生にとって、財団関係者からの励ましの言葉は、大変貴重なものです。そして、竜の子奨学生には、その言葉は一生に一度の出会いであると心得て、そこから多くのことを学んでほしいという願いを込めて、このコーナーを「一語一会」と名付けました。

第17回交流会レポート

2012年3月10日(土)の朝から11日(日)にかけて、財団関係者及び竜の子奨学生26名がスキー場で有名な新潟の湯沢町へ交流会に行きました。厳粛な卒業式と共に、美しい雪景色やスキーを体験し、充実した交流会を実現しました。

● 第5回卒業式 ●

式辞 秋元竜弥理事長

今回14名の学生が竜の子奨学生を卒業し、これで卒業生が延べ90名になりました。それぞれ母国で活躍する人、日本の企業で頑張る人、学業を続ける人と色々いますが、皆さんの人生は今始まったばかりです。今までとの学生生活とは全く異なる社会生活が待っています。忙しくなったら今の志をついつい忘れがちになりますが、10年、20年後にもその笑顔で頑張ってもらいたいです。世界を変えていく、希望を与えていくという、交流を重ねて勉強してきたその気持ちや志を忘れないで下さい。竜の子の奨学生の誇りを持ってそれぞれの分野に進んでいくことを期待しております。



式辞を述べる秋元理事長

す。目先の利益に惑わされず、自分の大義に合っているのか、常に第三者の視点で客観的に見られているのが重要であるという意味を持っています。

2つ目は2500年前に歴史に名を残した孫子の最後の言葉です。「戦いは必ず仁と義のもとに行うべき、国の統治は第一に民を考えるべき、多くの名君を手本にして徳を重んじ賢人のみを近くに置き正義に背かぬように！」皆さんがこの言葉のように、知識のみならず大義や志を強く持ち、それを基盤に出来れば、各国のリーダーとして素晴らしい未来を創ることが出来るでしょう。

送辞

東京工業大学 王 悦来

交流会を通して作った様々な思い出は一生忘れられません。皆さんにも今までの思い出を大切にしてください。



送辞を贈る王悦来さん

私たちはそれぞれの夢を持って日本へ留学に来ました。秋元国際財団からは経済的な支援のみならず、精神的な支えもいただいております。そのお蔭で私たちは自分の夢に向かって諦めずに頑張ることが出来ます。秋元理事長や支援して下さった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。奨学金を無駄なく使わなければならないという重大な責任感を感じています。

私たちが留学している理由は夢を達成することです。卒業生みなさん、卒業しても、自分の夢を達成するまでは様々な試練があると思いますが、竜の子としての誇りを持って頑張ってください。最後に、秋元国際奨学財団のさらなるご発展、卒業生の皆さんのご健康とご活躍を心からお祈りします。

祝辞 一般社団法人湯沢町観光会 専務理事 上村 信男 様

ちょうど1年前、大変な大震災がありました。皆さんもボランティアとご支援をなさったとお聞きしております。大震災を経て昨年選ばれた「絆」という言葉がありますが、愛と善意があってこそ、絆が生まれていくものと思います。10年20年後におそらく皆さんが、日本と母国と世界で指導的な活躍をなさるとと思いますが、その絆、愛や善意を忘れないように心の中に留めて、それぞれの分野で活躍していただきたいです。



祝辞を述べる上村信男様

祝辞 株式会社未来塾

代表取締役 岸野 一夫 様

皆さんの知識と知恵に二つの先人の言葉を加えていただきたいです。1つ目は、山田方谷先生の「義を明らかにして、利を計らず、事の外に立ちて事の内に屈せず」という言葉です。山田先生は経済のケインズの師とも言われている方で、200年前にある藩の財政危機を短期間で救った経済の偉人で



祝辞を述べる岸野一夫様

答辞 筑波大学 馬 耀

私は博士課程の5年間、大変なことが沢山ありましたが、最も困ったのは経済的なことであり、諦めようと思ったことが何回もあります。しかし、私たちを支援して下さった方々や仲間



答辞を述べる馬耀さん

が沢山いることを思いながら頑張りぬき、この場にすることが出来ました。心より、感謝を申し上げます。

今までは博士号を目標として頑張ってきましたが、これからは私たちだけでなく、人と社会、国際交流のために自分に何が出来るかを考えながら行動していきたいです。これから竜の子奨学生としての誇りを忘れず、社会に貢献していきましょう。

卒業生より理事長へのプレゼント贈呈

東海大学 ユニアル プラスタワ

日本の大学に留学することは10年前からの夢でした。豊かではない母子家庭で、子供の頃は自信と夢すら持っていませんでしたが、母のお蔭で将来の夢を考えるようになりました。8年前に来日し、3年間日本企業の研修生として母国の家族を養いながら、学費を貯めました。東海大学の経営学科に入学しましたが、経済的な困難で、2回も退学しようと思った時がありました。しかし、諦めないことを選び、自分の夢に向かって努力した結果、秋元国際奨学財団という希望に出会いました。

お蔭様で勉強に専念し、優秀な成績をあげることが出来ました。私の背中を押してくれた人々に、私の夢を再び咲かせてくれた方に、本当に感謝します。

私たちがここまで来れたのは理事長をはじめ寄付者の方々の大きな支援があったからです。これからは、絶望的な人に希望を、元気を失った社会へ喜びを与え、励ます立場になります。

私は日本で学んだことを母国のインドネシアで貢献したい夢を持ち続けています。自分を信じ、仲間を信じるという、絆はいつまでも変わりません。



卒業生を代表して理事長にプレゼントを贈るユニアルさん

● スキー体験 ●

卒業式の前後には湯沢町のスキー場でスキー体験しました。人口は8千人しかいないが、毎年4百万人もの観光客が訪れる、とても綺麗な雪景色の前で竜の子奨学生達は思わず嘆息を漏らしました。

初めてスキーを滑る学生が殆どで、雪を初めて見る人も沢山おり、インストラクターの方にスキーの基礎から教えて頂きました。上手に滑る人を見るととても簡単に見えましたが、小さな坂で練習を続けても、最初は歩くのさえ難しかったです。

2日目はみんなリフトに乗ってスロープに上がり、自由にスキーを体験しました。あちこちで転びながらも、みんな上達して少しずつ滑れるようになりました。翌日にはみんな筋肉痛で大変だったそうですが、一人も怪我せずに日本の美しい雪景色とスキーの体験ができ、とても貴重な時間を過ごしました。今回の交流会を開催するにあたり、秋元国際奨学財団を支援して下さった方々、スキー体験に協力して下さった神立高原スキー場の笛木様をはじめインストラクターの方々に、心より感謝申し上げます。



湯沢スキー場で記念撮影



夕食後に行われたカラオケ大会の優勝チーム

(担当：平成23年度竜の子奨学生 東京芸術大学 李 丞孝)

平成24年度卒業生紹介



翻訳課の仲間たち（右から2番目が本人）

コ シメイ
胡 思鳴（中国・湖北省）

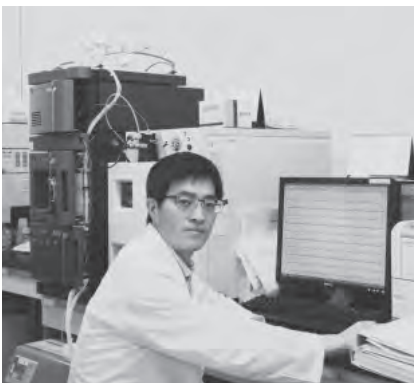
「中国に帰って仕事している」

湯沢町の卒業式からもう数ヶ月を経たのですが、度々皆様の笑顔を思い出しています。4月に帰国してから、すぐに入社し通訳の仕事を始めました。

今働いている会社は鉄鋼メーカーで、近年、日本の企業との取引及びプロジェクト開発が多くなりましたので、私は入社して、先輩たちの指導のもとで、ビジネスの打ち合わせとか、技術交流とか、いろいろなことに参加しています。毎日新しいことや人々に会え、成長し続けていると感じています。

勿論、社会は学校と違って、辛いこともあり、一人で泣きたい時もあるのですが、そんな時は、いつも秋元国際奨学財団の皆様の言葉を思い出して、「これからは勝負です」と自分を励まして、立ち上がって再度頑張ります。

これからも竜の子として日中交流に一層役に立つため頑張ります！



理研でLC-MSを測定しています

ヨウ シゴウ
楊 志剛（中国・河北省）

「理化学研究所で特別研究員として仕事しています」

湯沢町で秋元国際奨学財団を卒業後、大学院後期課程を修了し、博士学位を取りました。竜の子奨学生としての4年間、秋元理事長をはじめ財団関係者様、寄付者の皆様からのご支援を頂きましたこと、この場を借りて心から感謝致します。

現在、私は理化学研究所の横浜研究所植物科学研究センターで特別研究員（ポストドクター研究員）として仕事をしています。植物が生産する多彩な二次代謝産物は、植物自身の生存だけでなく、人類の健康や生存にも重要な存在です。私は主にイネ、シロイヌナズナなどの植物が含有する化学成分の分離と構造解析を行っております。

これからも、竜の子奨学生の誇りを持って、仕事に取り組みたいと思います。



韓日文化経済新聞

「2012麗水万博日本公式SNSを運営・管理を担当しています！」

2012年3月無事に卒業式を終わってから韓国に帰ってきた私は、今年5月12日から8月12日まで韓国の麗水（ヨス）で行なわれる「2012麗水世界博覧会」に関する情報を日本人向けのSNSチャンネル（facebook, twitter, mixi）を通じて発信・運営を担当しています。

今回の万博は「海」をテーマにしており、世界の約100カ国が参加しています！そのため、国内最大規模のアクアリウムや各国の海に対する考え・活動はもちろん、多様な文化公演や夜にはK-POP公演まで本当に見所が数多くありますので是非、一生に一回しかない麗水万博へお越しください！

麗水万博が終わり次第、私の役割も終わりますが、これからもこのように日本と韓国を繋ぐ架け橋になれる仕事をやっていきたいです！！

バク セヒ
朴 世熙（韓国・ソウル市）



スイツシュホテル大連にて

マ ヨウ
馬 耀 (中国・大連市)

「就職活動中」

大学院を修了してから数ヶ月が経ちました。今年度は昨年度からの中央学院大学に加え、日本女子大学でも非常勤講師として働いております。また、文教大学の客員研究員にもなっており、教育と研究に勤しむ日々を送っています。大学院時代と違って、論文を書かなければならないというプレッシャーはそんなにないのですが、今度はいつ就職できるのだろうかという不安を抱えています。何年先になるかは分かりませんが、これからも大学の非常勤講師になる希望を持ち続け、教育と研究の実績を積み重ねて行き、1年でも早く就職できるように努力していきたいと思います。



初々しさ満々のルーキー社員です。

ギ トウキ
魏 登輝 (中国・河南省)

「株式会社ZEALのルーキー社員 ギ トウキです」

皆様、お久しぶりです。卒業生の魏登輝（ギトウキ）です。

秋元国際奨学財団から、そして大学から卒業して早くも4ヶ月が経ちました。私は日本で就職し、現在名古屋でルーキー社会人の生活を送っています。今は毎日遅くまで会社で仕事内容について勉強していますが、その分自分自身の成長も感じています。まだまだ未熟で半人前の私ですが、将来他人を助けられるように全力で頑張っていきたいです。それこそが秋元国際奨学財団への恩返しだと考えています。

これから、少しでも余裕ができましたら、皆様に会いに行きますので、どうぞよろしくお願いいたします。



長野で自然の美しさにふれる

ソン ビンカ
孫 敏華 (中国・天津市)

「遅いですが、就職活動に頑張っています」

今年の3月に卒業してから、一回帰国しました。6月の初旬に中国から戻り、7月には教授から許可をいただいて、所属していた東京大学の人体病理教室で博士課程の時に完成できなかった実験を続けています。博士課程の時に凄く頑張って実験成果が出たので、より高いレベルの論文が発表できる時まで研究を続けるつもりです。今私の生活の中心は、日本で研究ができる正式職場を探すことです。博士課程の頃よりも、今のほうが辛いですが、きっと乗り越えられると信じています。辛い時こそ、明るく元気に前を向いて頑張っていきたいと思っています。



岡山の後楽園にて

リ ハク
李 博 (中国・鞍山市)

「先生になりました」

昨年の10月に長年の学生生活を終え、秋元国際奨学財団を卒業し、帰国しました。現在、それまでに抱いていた夢を叶え、中国の南通大学で講師として勤めています。活気の溢れるキャンパスの中で歩き、学生達に「先生」と呼ばれ、何とも言えない幸福感に満たされています。

学生教育の他に、今「海洋経済の発展対策」をテーマとした南通市のプロジェクトを担当し、2通の学会論文も投稿しました。今までに学んだ知識を活かし、社会貢献できるのも先生としての生きがいの一つだと感じています。ちなみに、帰国してから中国の料理のおいしさに耐えられず、6キロも太り、記録更新中です。ダイエットしなきゃ(*^__^*)

皆様との再会を楽しみにしています。

第18回交流会レポート

● 第6回奨学金贈呈式 ●

平成24年4月27日（金）、MLB café TOKYOにて第6回贈呈式が開催されました。第6期は6名の留学生たちが選ばれ、竜の子奨学生として迎え入れられました。秋元理事長や小谷誠委員長から温かいお祝いの言葉をいただき、朱震さんが新入生を代表として感謝とこれからの決意について話してくれました。

式辞 秋元竜弥理事長

新奨学生のみなさん、秋元国際奨学財団のキャッチフレーズである「その夢はきっと世界を変えて行く」という最初の志を忘れないでください。自分たちの夢に向かって必ず夢を達成し、将来、国際友好親善、世界平和に貢献できる人材になってください。

ちょうど1年前は、竜の子奨学生たちが宮城県女川町にボランティアに行きました。多くの留学生が母国に帰る中、竜の子奨学生たちは「中国、台湾での大震災の時、日本にお世話になりました。是非やらせてください！」と立ち上がりました。まだ放射線量がどれくらいかも分からないうちに、前日から食材を準備して炊きだしに行きました。奨学生のみなさん、先輩たちのように心から竜の子魂を忘れずに頑張ってください。



式辞を述べる秋元理事長

選考結果報告 小谷誠選考委員長

今年度から当財団が公益財団法人になりました。その代わり、50名の学生がおられたこともありましたが、今年度から人数を減らして20名になりました。しかし、当財団で一度竜の子奨学生になったら、できるだけ最後まで面倒をみたいという理事長の強い要望があります。今回20名を採用しますが、昨年度の奨学生に聞くと、ほとんどの16名が再申請をしたいということで、20名の残り4名を受け入れることになりました。それで、4つの大学に依頼して、4名を選ばせていただきました。しかし、選考後、理事長から補欠になった2人も採用しましょうということで、合計22名になりました。

審査の中で皆さんに、「将来に対する夢」について論文を書かせていただきました。その夢について、私の専門分野の脳科学の話をさせていただきます。将来の夢に向かって、努力すると、脳の中からドーパミンという物質が出てきてやる

気も起こるし、心が幸せにもなります。夢を持って努力するとい成果が出て、それがまたフィードバックになります。また、「国際親善」についても論文を書かせていただきましたが、これはセロトニンという物質と関係します。ドーパミンとは違いますが脳の中からセロトニンという物質が出て、心が幸せになりますし、自分の成功より周りの人と仲良くすることや助けることができます。

最後の一言ですが、若いうちには夢を目指してドーパミンを出し、頑張ってください。

奨学生代表挨拶

東京学芸大学 班 文林

私は日本のすぐれた科学技術や音楽芸術を学ぶために留学しましたが、内モンゴル自治区の平均収入は日本の10分の1であり、カルチャーショックを受けました。当初、台湾の祖父から経済的に支えてもらい、少ないアルバイトで充実した研究生の生活を送りました。そして、2008年に進学することになりましたが、8月に祖父がなくなり援助も途切れまして、悲しみ一方、経済的な困難に直面しました。このような絶望の時期に、秋元国際奨学財団から暖かい手を差し伸べていただきました。その援助のお蔭で、私たちは最も切実な問題が根本的に解決でき、本当に心より感謝しております。さらに経済的な支えだけではなく、毎年の交流会が日本の美学と哲学を肌で感じ取れました。

私たちは秋元国際奨学財団から家族のように大切に守られていることに深く感謝しております。この大家族に新しく入ってきた竜の子奨学生の皆さんおめでとうございます。私たちは初めて会っても夢を抱いているという共通点があります。それは、どんな試練があっても夢をかなえるならば気にせず乗り越えられるし、どんどん成長することができます。限られている人間の中に、今の夢をかなえるために努力しましょう。そして、留学の経験を活かして国際親善のために尽力しましょう。



在學生を代表してスピーチする班文林さん



選考結果を報告する小谷選考委員長

新入生代表挨拶 京都大学 朱 震

私の夢はこの世界をもっと知りたいということです。私にとって、日本の文化や経営方式が非常に魅力的な存在です。日本で生活しながら文化の理解と、経営学の勉強のために留学しました。私の場合は、母国からの仕送りがなくて生活費の全額をアルバイトで稼がなければならなかった状態でした。しかし、大学での勉学と研究のためにアルバイトの量を減らせなければならず、学業が続けられるかど



新入生を代表してスピーチする朱震さん

うかが心配になりました。そして竜の子奨学生になった今は、学業に専念でき、国際交流活動にもより積極的に参加することができて大変うれしいです。これまで様々な国の人とお互い分かち合い、将来の夢と未来を語り合うことが私の宝物です。これからは竜の子奨学生の誇りを持ち、より一層みなさんと一緒に夢に向かって一生懸命頑張りたいと思っています。今なら自分が進む方向を失わずに、さらに夢に向かって歩くことができます。私たちの夢を支えていただいて本当にありがとうございます。

(担当：平成23年度竜の子奨学生 筑波大学 金 恩河)

● 祝 賀 会 ●

贈呈式の後に祝賀会が行われました。ご来賓の方がこころ温まる祝辞をいただき、新入生と卒業生より感謝の言葉を寄付者に述べました。最後に竜の子奨学生の皆で「その夢はきっと世界を変えていく」を合唱し、円満に会が終えました。

式辞 秋元 竜弥 理事長

当財団の卒業生が90名になりますが、もう早々一期生、二期生が卒業し母国に帰って、それぞれの有名な大学で教育者になり、もしくは、日本の大手企業で活躍し始めています。これも今まで支えて頂いた皆様のお陰だと思います。奨学生の皆様は、多くの人に支えられているということを頭において、これからの困難に立ち向かって下さい。

ご来賓挨拶 NPO法人 STAND

伊藤 数子 様

私は障害のある人たちが自由に好きなスポーツが継続できるような社会を作ろうと活動を致しております。

私は夢という言葉が大好きです。小学一年生に将来の夢は何ですか？というアンケートを取ったデータがあります。去年、一昨年などを例にとると、小学校一年生の夢、男の子は第1位スポーツ選手、女の子も6位か7位にスポーツ選手が挙げられます。これは障害のない、いわゆる健常といわれる小学一年生の将来の夢で、私たちの周りにいる障害のある子供たちに、将来の夢は何ですか？と聞くとスポーツ選手と答える子はいません。なぜなら、知らないからです。そこで、私たちは障害者スポーツを広めていき、やりたいといった人たちに活動の場を与える事業をしています。

今日のキャッチフレーズ、「その夢はきっと世界を変えていく」のなかで、「その夢」と使われていますが、その場合の夢



伊藤数子様

とは第三者の誰かがくれるものだと思います。私、第一人称でいう時は「この夢」に置き変えて、自分の夢として絶対に世界をかえてみせる、という思いを持って頑張ってください。

乾杯

秋元国際奨学財団 太田 孝昭 理事

先ほど小谷先生がドーパミンとセロトニンのお話をしました。奨学生の皆さんはドーパミンを出さなきゃいけないもっともっと出ないといけない、そして僕のような50歳を超えたらセロトニンを出さないといけない。なかなかこれ出すのが大変です。



太田理事

祝辞 (ビデオレター)

NPO法人全世界空手道連盟 新極真会

代表 緑 健児 様

「押忍！」竜の子奨学生に新しくなられた皆さん、おめでとうございます。私達新極真会は世界80ヶ国、8万人を有する空手の団体であります。私達新極真会も秋元理事長には大変お世話になっております。皆さんも秋元理事長から頂いたご厚意を心から感謝して一生懸命勉学に励んでください。そして日本の文化を学び、日本の友達を沢山作って皆さんが自国に帰った時に日本と皆さんの国とのかけ橋になれるように頑張ってください。応援しています。「押忍！」



緑健児様

祝辞（ビデオレター）

第10回全世界空手道選手権大会王者
塚本 徳臣 様

「押忍！」竜の子奨学生の皆さんへ。
皆さんの才能を人のため、世界のために使って頑張ってください。一生懸命勉強してください。応援します。「押忍！」



塚本徳臣様

祝辞（ビデオレター）

祝辞 東海大学理事・副学長 評議員
山下 泰裕 様

今日、奨学生になられた皆さんは、この奨学金のお陰で、奨学金の力でそれぞれの学業や専門分野に専念できる、そういう立場になられると思います。日本のことわざで「鉄は熱いうちに打て」という言葉があります。若い皆さんには、非常に大きな可能性があります。これから、思い切りそれぞれの分野で学問に取り組まれ、志を大きく持ち、夢に向かって頑張ってください。



山下泰裕様

私は28年前、ロサンゼルスオリンピックに出場しました。そして幸運にも金メダルを取ることができました。選手時代、私はいつも自分の夢に、可能性にそして限界にチャレンジしてきました。今も同じ思いで夢や可能性にチャレンジしております。皆さんがそれぞれの分野でますます成長し、将来母国の発展のために、また、母国と日本を結ぶ掛け橋になれるような大きな人間に成長されることを心から支援しています。そしてお互い頑張りましょう。

新入生代表挨拶

名古屋大学 金 丹（中国）

私は中国籍の韓国人で一年半前に名古屋大学の教育学部の研究生として日本にきました。日本にきた理由は、私は日本語で話したかったからです。

新入生代表
金丹さん

しかし残念ながら、日本語ができるからといって留学生生活が必ずしも楽というわけではありませんでした。物価が高い日本での生活は想像以上に大変でした。特に最初の半年は大学院の入試に精一杯でアルバイトする余裕がありませんでした。家計に負担をかければかりで今は修士課程の論文を書くことがなにより大きな課題ですが、経済的困難がこれ以上長く続くと無事に学業を終わらせることは困難で、休学も考慮していました。いろいろな選択肢で迷っている私に秋元国際奨学財団が支援をしてくれました。私たちに夢に向かって挑戦できる機会をくださいました方々のおかげで初心を失うことなく研究に専念できるようになりました。心より感謝の気持ちを申し上げます。

卒業生代表挨拶

第三期生 東京大学 宋 昌錫（韓国）

今から三年前になりますが、私が秋元国際奨学財団の奨学生に選ばれた時を思い出します。その頃は、自分にとって色々と厳しい時期でもあり奨学金の採択通知を頂いた時はとてもうれしかったです。ここにいらっしゃる奨学生の方々も多分同じ思いがあったでしょう。秋元国際奨学財団からは奨学金だけではなく、様々な文化体験もさせていただきました。金銭的な支援もさることながら、普段なかなか経験することない日本の文化を体験できたことがとても有意義で楽しかったです。

卒業生代表
宋昌錫さん

竜の子奨学生の皆さん、そして従来の奨学生の皆様、この秋元国際奨学財団という場でアジア各国の皆さんと出会うことは、お互いを引き寄せる強い縁が働いているからでしょう。各国における政治、文化的の違いにより距離を感じることも現実としてあるかもしれませんが、皆様がお互いを尊重し合いながら交流を深めていくことこそ、金銭的な支援よりもさらに大きな財産になると思います。

そして皆さんの人的ネットワークに支えられ、世界の秋元国際奨学財団として有数な人材を送り出し続けるでしょう。奨学生の皆さんは支援者の方々からの期待にこたえられるために自分の目指す道を力強く進んで頑張ってください。

閉会の挨拶

GMOペイメントゲートウェイ株式会社
代表取締役社長 相浦 一成 様

奨学生の皆様に、二つをお話させていただきます。まず一つは、私も娘をイギリスに留学させております。留学する方、させている親、二つの心が交差しています。娘は年に四・五回帰ってきますが、毎回泣きながらイギリスに帰って行きます。その時私は、甘い言葉を言わず、「ガンバレ、負けるな」と尻を蹴飛ばしてイギリス送り出す父の姿と、「ちゃんとお飯を食べてるか、病気になっていないか」と心配している姿の両方があります。つまり、奨学生の皆さんご両親に感謝してください。



相浦一成様

二つ目が高い志で日本に来ていると思います。高い志、高い目線で人生を送れば、つらいことがあっても解決できますし、高い志でいれば良い仲間ができます。高い志でいれば、いろんな周りの方々が助けてくれます。高い志をもって継続し、今後とも日本でつらいことがあっても負けないで頑張ってください。

最後に夢というキーワードで私の好きな言葉を皆さんにご紹介させていただきます。「夢のある人に目標あり、目標のある人に計画あり、計画のある人に行動あり、行動のある人に成果あり、成果のある人に自信あり、自信のある人に夢あり。」

平成24年度新入生紹介 新竜の子奨学生たちの「座右の銘」

新年度の竜の子奨学生として、初めての贈呈式・祝賀会に参加することができてとても感無量です。留学生の先輩方々と交流することができたほか、夢について熱く語る素敵な大人たちのお話を聞かせていただき、私たちも自分の信念を貫いて夢を実現することに向けて、もっと頑張ろうと思うようになりました。ここで、未熟な私たちの「座右の銘」をご紹介します。



キン タン
金 丹

(中国・黒竜江省・寧安市出身)
名古屋大学 教育発達科学研究科
教育科学専攻
博士前期課程二年生

私の座右の銘は「私が選択すると同時に選択されることを忘れてはいけない」ということです。

自分に自信を持って前向きに考え、行動することは当然良いことであるが、自分だけが優れると思うのは大きな間違いです。

例えば、どの大学に入るか、どの会社就職するか、或いはどの人と付き合うか等は、ただ自分が選択すれば良いことではなく、相手から選択されているということも認識すべきです。



キム テヒョン
金 兌炫

(韓国・ソウル市出身)
京都大学大学院 機械理工学専攻
博士課程一年生

私の座右の銘は、「人生は自分のものではない重い荷物を背負って、運命で定まっている長い旅と同じもの。」です。

素晴らしい旅とは、あるときは辛く、嬉しいことがたくさんありますが、旅の道をどう歩んでいくかも大事ですが、最後のゴールまで何をしていったのが一番大事だと思います。運命だと自分を自信と自分の周りの人も愛し、急ぐべからず、無駄な重い荷物を背負わず、現在を歩みましょう。



デン アンナ
田 安娜

(中国・遼寧省・瀋陽市出身)
九州大学大学院 理学府化学専攻
修士課程二年生

私の座右の銘は「自分を信じれば、何でもできる」です。

私は新しいことにチャレンジする時に、常に完璧にしようと思いがけています。

たとえ挫折に遭っても、決して諦めず、立ち向かっていく勇氣を持ち、必ず最後までやり遂げます。自分を信じて、夢に向かって、直往邁進し、輝いた人生を歩んでいきたいです。



ノウ シコウ
農 思航

(中国・広西チワン族自治区・柳州市出身)
名古屋大学大学院文学研究科
文芸言語学コース日本文学専門
博士前期課程二年

「明るく前向きな心を持って、自分の信じる道を行くんだ」というのが私の座右の銘です。文句を言わずに常に明るく前向きな姿勢で行動していれば、きっと幸運の女神に恵まれると信じます。それに、自分の選択した道を迷わずに進んでいくのが良いです。誰の真似もしないで、他人と異なった自分のアイデンティティを大事にして、自分の可能性を信じて努力を続けていけば、きっと道が開いてくれると思っています。



シュ シン
朱 震

(中国・陝西省・西安市出身)
京都大学 経済学研究科
経済学専攻 修士課程一年生

私の座右の銘は「自分らしく生きる」です。

他人からの影響を全てそのまま受け入れると、いつの間にか自分ではなく、他人の人生を生きるようになり、そうならないため、常に自分の心の声を聴いて、「これは本当に私のやりたいことなのか？」と問いかけています。今までの人生をこのように歩んできたことはとても幸福なことでした。これからこのように生きていきたいと考えています。



オウ ゲイギョウ
王 藝凝

(中国・遼寧省・大連市出身)
一橋大学大学院
社会学研究科総合社会科学専攻
総合政策分野 修士課程二年生

私の座右の銘は「人生は反省の繰り返し」です。私は常に自分の行動や考え方について、一人で反省会を行っています。人はもっとポジティブに生きていくために、まず自分はどこが足りないのかを知り尽くさなければならないと思います。自分の足りないところを見出すことによって、次の計画やこれからのやるべきことを決めていけばおのずと、そこに夢を実現するための道も自然にできていると考えております。

(担当：平成24年度竜の子奨学生 一橋大学 王 藝凝)

竜の子近況報告



去年夏休み日本人の友達と観光した時に杭州の西湖に行って撮った写真（後ろは雷峰塔）

ト メイ
杜 銘雨 (中国・山東省)

立命館アジア太平洋大学
アジア太平洋マネジメント学部4年生

「就職活動頑張っています」

去年12月から就職活動に入り、今年5月の中旬頃に一社から内々定をいただきました。最初はなかなか面接が進まないことでとても焦ったりしていた時期もありましたが、自分の選択肢を増やすことで、意外な発見や出会いが訪れた。内定先は実は自分の第一志望ではなかったが、現代社会においてITを利用する分野の広さと若いうちに蓄積できる知識と経験の多さに魅力を感じ、自分にとって大きなチャレンジでもあるIT企業への就職を決めた。9月の卒業式までほんの少ししか時間がないが、授業とアルバイト以外の時間に大分周辺のイベントとボランティア活動に参加したり、様々な講演やセミナーに参加したり、大学生活を満喫したいと思う。



博士課程の卒業発表

リ ケイ
李 慧芳 (中国・遼寧省)

東京工業大学大学院 総合理工学研究科
化学環境学専攻 鶴田・吉沢研究室 博士3年生

「卒業発表を行いました」

6月25日に卒業発表を行いました。1時間半の発表及び質疑応答は無事に終わりました。夜、研究室の後輩に慰労会を企画していただきました。その時、思わず4年前の自分の歓迎会のことを思い出しました。本当に家族や学校、秋元国際奨学財団の皆さんから色々支えていただいて、ここまで成長したと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。



実験中

オウ エツライ
王 悦来 (中国・河北省)

東京工業大学 総合理工学研究科
メカノマイクロ工学専攻
佐藤海二研究室 修士2年

「就職が決まりました」

私は先生から教えていただいた「頑張れば、必ずいい結果が出る」という言葉が好きです。自分の目標を目指して、どんなに困難なことにあっても、諦めずに努力します。

私は5月にファナック株式会社から内々定を頂き、来年4月からそちらに就職することが決まりました。ファナック株式会社は工作機械業界世界シェアNo.1を誇り、優れた制御技術をもつ大手機械メーカーです。そして、私の研究内容と近い為、将来一番働きたい会社です。

財団の支援のおかげで、私はこの希望を叶えることができました。財団の方々と寄付者の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、自分の言葉に負けないように、夢に向かって精一杯頑張ります。



一橋大学国立キャンパスの兼松講堂の前で

キム ジオン
金 智媛 (韓国・ソウル市)

一橋大学大学院言語社会研究科
博士後期課程2年

「日韓次世代学術フォーラムに参加しました」

6月30日から7月1日にかけて一橋大学国立キャンパスで開かれた「日韓次世代学術フォーラム」に発表者として参加しました。今までの研究対象は「朝鮮における日系百貨店」が中心でありましたが、今回は少し観点を変えて、「植民地期朝鮮の女性に対する認識変化－百貨店の女性店員をめぐる－」というテーマで報告をしました。集まった人たちに大変興味を呼び起こせる内容だったようです。これからも、日韓の歴史の中に隠されている点を探るため、研究を進めていきたいです。



学校の正門にて

マハルジャン スニル (ネパール・KATHMANDU)

東京電機大学 情報環境学部
情報環境学科3年

「研究室が決まりました」

大学に進学した時から望んでいた研究室にやっと入ることができました。私が所属する研究室は「ソフトウェア工学研究室」です。色々な条件があり審査は2週間も続きましたが、クリアして入ることができました。現在は、アンドロイドのゲーム開発をしています。日々、新しいことを学べるのが楽しいです。今までは基礎的な事を学んで来ましたが、これからはより高度な技術を身につけ、システム開発について理解を深めていきたいです。また、今年も短期留学生のpeer adviserをし、リードワールドカップの通訳ボランティアにも参加します。おかげさまで、様々な経験を通して成長させていただいており、日本での自分の役割が増えて来たように思います。



日本大学芸術学部デザイン学科海外客員教授特別講演・講義における台湾教授と「日芸」学部長の交流記念写真。

ソウ エイコウ 曾 永宏 (台湾・台北市)

日本大学 芸術学研究科 芸術専攻
博士後期課程3年

「翻訳・通訳の仕事に挑戦しました」

先日、日本大学芸術学部デザイン学科海外客員教授特別講演・講義が開催され、台湾から二人の教授が来日されました。私は翻訳・通訳として参加致しました。これらの体験が初めてのことで、貴重な体験をする事が出来ました。苦労も多かったですが、たくさんの方々にご来場いただき、関係者のひとりとして感激しました。

奨学金を頂き、研究を続けられるだけでも幸福なことなのに、このような活動にも参加することができ、私は幸せ者です。改めて秋元国際奨学財団と寄付者の方々、大学院の先生方に感謝致します。本当にありがとうございます。これからもこのような交流会に参加したいと思います。



受賞後に撮った記念写真

リン キリュウ 林 熙龍 (中国・福清市)

電気通信大学 情報理工学研究科
情報・通信工学専攻 情報数理工学コース

「目黒会賞を受賞しました」

3月の電気通信大学の卒業式典で「目黒会賞」という成績優秀賞をいただきました。4月から大学院の生活が正式に始まりました。修士一年次は授業が多く、毎日課題に追われています。それに加え、修士になったので学部生の頃よりもいっそう研究に力を入れなければなりません。私の研究室では月2回、各自が自分の研究進捗について皆の前で発表します。そのために論文を読んだり、資料を調べたりするのはもちろん、そのほかに発表練習を繰り返し行っています。毎回の発表をしっかりと準備して指導教員からのアドバイスを受けているおかげで毎日少しずつ研究が進んでいます。このように忙しいながらも充実した日々を過ごしています。



十勝岳望岳台にて

オウ シュンコウ 王 俊紅 (中国・遼寧省)

北海道大学 大学院教育学院多元文化
教育論講座博士後期課程

「論文の準備をしています」

皆さん、お元気ですか。私は学会発表をしてから、予備審査のための論文を準備するために、忙しい日々を過ごしています。皆さんと同じように、納得できる論文を出すまで、大変なことがたくさんありました。私は自分が落ち込んだ時、いつも大学時代の恩師が励ましてくれた「人生は旅である」という言葉を思い出します。人生は戻れないことなので、どんなことがあっても、前向きに進まなければなりません。その旅には楽しみにしていることもあれば、予測できない困難もあります。そんな時でも、頑張れば、きっと困難を乗り越えることを信じています。



東大寺前の鹿さんと一緒に

シュウ シン
周 思思 (中国 江西省)

明治大学 商学研究科商学専攻
金融・保険・証券専攻 博士後期課程3年

「メリハリ」

先月親友が中国から訪ねてきたので、生活にメリハリをつけようと研究の合間に、一緒に奈良を旅してきました。奈良は静かな町で、東京と打って変わって歴史の重厚感に包まれています。それにしても、貪欲な鹿さんにすこしばかりしました（笑）。最近研究では実証の段階に入り、プログラム組みという一番難しい段階です。プログラミングがあまり得意ではない自分ですが、苦しいときには自分と同じような夢のために戦っている竜の子奨学生の仲間がいることを思い出し、その度に力が湧いてくるような気がします。



4年生の歓迎パーティー（前列右から2番目が本人）

イ デイヨン
李 大英 (韓国・ソウル市)

北海道大学 水産学部 食品機能化学研究室

「研究室の生活」

今年4月から食品機能化学研究室に配属されました。これは研究室のみなさんと撮った4年生の歓迎パーティーの写真です。先生や先輩たちもみんな熱心で学ぶことがいっぱいあり忙しい日々を過ごしていますが、今ではやっと自分の研究ができて楽しく勉強しています。

私の研究テーマを簡単にお話しますと、北海道で未利用資源であるダルス（紅藻）から抗炎症作用を持つタンパク質を確認・同定し、機能食品への利用につなげることを目指しています。紅藻でタンパク質はイメージしにくいと思いますが、近年タンパク質の機能成分が注目されていることから、将来私の研究が人々に役に立つことを期待しています。



新婚旅行先のパン屋さんで美味しいそうなパンを見つけて幸せです

キム ウンハ
金 恩河 (韓国・蔚山市)

筑波大学大学院 人間総合科学研究科
障害科学専攻 博士後期過程2年

「幸せが2倍になりました」

博士後期に進学してから、研究テーマで色々苦労しましたが、ちょっとずつ道が見えてきました。

また、今年の3月に、人生の大きな課題であった結婚式を韓国で無事挙げられました。国際学生夫婦になりまして、今は韓国と日本でそれぞれ自分の研究を進めていますが、これがまた学業に専念できるモチベーションにもなります。お互い研究分野も違いますが、助け合いながら研究も遠距離結婚生活もやっています。遠距離で寂しいなと思う時もありますが、それより、幸せが2倍になって、研究もポジティブな方向に向かっていきます。秋元国際奨学財団の皆様、これからも末永くよろしくお願いいたします。



高尾山に登っている途中

ロ シブン
呂 思文 (中国・遼寧省)

東京海洋大学 海洋科学部
食品生産科4年

「研究室に入った新しい生活」

今年4月から大学4年生になって、研究室に入りました。現在、肥満細胞をはじめとした免疫細胞の活性化機構や食品機能成分による細胞機能制御の研究を行っています。初めてこの分野に入った私にとっては大変な挑戦になりますが、新しい知識を勉強しながら、様々な細胞実験を行い、充実した毎日を送っています。8月末の大学院入試に向けて準備もしているところです。色々大変ですが、自分の夢に向かって頑張りたいと思います。

● ロンドンオリンピック予選を戦い終えて 王皓選手へのインタビュー ●

2012年7月17日（火）、神奈川県平塚市にある東海大学にて、竜の子奨学生でもあり世界で活躍している中国の王皓選手取材しました。東海大学柔道部は男子部員が111名、女子部員が32名在席しており、全日本学生大会4連覇中です。王皓選手は21歳で、柔道歴は7年、中国国内の大会や日本の大会以外、世界大会などでも実績を上げ注目を浴びている選手です。そこへ同じ竜の子奨学生として王皓選手とお会いし、練習の状況や今後の目標などお話を伺うことができました。

質問：王皓選手は今、東海大学で柔道を学び、日本、アジア、世界各国で戦っています。柔道を始めたきっかけは何でしょうか。

私は14歳のときから柔道を始めました。子供の頃からまわりの友達より体が大きくて、バスケットボールやボクシングをやっていました。中学校の張丕東先生に「君は必ず強くなるから一緒に柔道やろう」と声を掛けられたのが、柔道を始めたきっかけでした。

質問：日本に来た経緯を教えてください。

16歳のときに北京の中国柔道男子ジュニアナショナルチームに参加した際、当時、中国の柔道男子代表チームのコーチを務めていた光本先生に出会いました。光本先生は、1984年ロサンゼルスオリンピックで柔道の無差別級の金メダルを取った山下泰裕先生の先輩であることを後になって知りました。その光本先生が長身ながら、俊敏に動けるわたしを見て「まだ未熟だが、日本に来ればものになる」とおっしゃってくださいました。本当に光栄に思いました。これがきっかけとなり、2008年2月に東海大学を中心に様々な日本国内の大学や高等学校等で短期強化のため日本の地を初めて踏みしました。そしてその時に、東海大学の松前杯があり、そこで優勝しました。その後は、夏休みや冬休みなどを利用し、来日で柔道の強化に励み、2009年には、東海大学への進学を決め、受験のために来日しました。

質問：柔道を始めてから一番苦労したことは何でしょうか。そしてどのように克服したのですか。

一番苦労しているのは体力を付けるための練習ですね。大会の時、少なくとも一日5試合がありますので、かなり体力が必要です。そのため、練習の時、長距離走、ダッシュや階段を登るなどが毎日の日課となっています。克服の方法については、もともと監督は厳しい方ですので、練習はかなりハードです。そして監督は「練習の時は辛いけど、優勝した時のうれしさはすべてこの辛さを補える」と言ってくださることが、まさにその通りだと思い、毎日練習に励んでいます。

質問：柔道の精神は何でしょうか。

「自分自身を持つこと」です。柔道はほとんど個人戦のため、まず自信を持つのが大事です。相手を見極めることはもちろん大事ですが、相手を見極める前にまず自分の弱点を知り、試合になるたび自分との戦いのようなものです。だから、毎回の試合は相手を倒す以外、自分の弱点を直す試合になります。勝つために、下での練習はとても大事です。ビデオをチェックするのも自分の足りないことをチェックするということです。練習と試合を通して、「自分の柔道」を見つけて、大きな自信を常に持つことは柔道の真髄だと思います。

質問：王皓選手にとって一番記憶に残っている試合はいつのどの試合でしたか。



王皓選手



東海大学でのインタビューの様子

2011年11月11日と12日にてワールドカップ アピア（サモア）の試合でした。試合最後の日の3、4位決定戦です。コーチがいないまま試合に臨み心の不安が起き、さらに相手の方を見ると、コーチと試合の相談をしていたのももっとも緊張しました。一方で山下先生がした試合を思い出しました。自分なりの試合をすれば思い通りになると信じ、自分なりの試合をしようと決心しました。試合前に一回深呼吸をし、その後全力で戦い、5分間後、判定で私が勝ちを収めることが出来ました。この時、初めて自分なりの試合ができ凄く印象的で、今後もこれの経験を活かして頑張っていきたいと思います。

質問：今後の目標は何でしょうか。

去年までは怪我が多かったので、今年からはいっぱい練習して本格的にいろいろな大会で優勝を狙っていきたいと思います。

- ・今年（2012年）全日本学生大会で五連覇すること。
- ・来年（2013年）中華人民共和国の全国大会で優勝すること。
- ・再来年（2014年）アジア大会で一位を取ること。
- ・2015年ユニバーシアードに出場すること。
- ・2016年リオデジャネイロオリンピックに出場すること。

そして、その先の将来の目標は、「柔道の指導者として、中国と日本の絆を強めたい」と思って、疲れを残さないで日夜練習に励んで頑張りたいと思います。

取材を終えて・・・

王皓選手との話で柔道に対するイメージが大きく変わりました。王皓選手の練習の辛さや日本での練習の難しさについて初めて知りました。そして王皓選手の決して倒れず、怪我になっても諦めず、頑張っているいろいろな困難を乗り越え、常に大きな目標を持つ姿に感動しました。王皓選手のお話の中でよく出てくる言葉は「自分自身」です。高い志を持ち自分を信じて、その夢に向かい一生懸命やっていけばきっと結果を得ます。私たち竜の子奨学生も「その夢はきっと世界を変えていく」と常に思い出し、それぞれの夢に向かって頑張っていきます。

ここで東海大学柔道部ご関係者様、王皓選手に改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

支援者のご紹介

● 寄付者法人（五十音順）

株式会社アールブリアン
ARD・アドバイザーズ株式会社
株式会社ウェルホールディングス
SBSホールディングス株式会社
株式会社エヌ・エス・ジー
エンジェルインベストメントベンチャー株式会社
岡山ロイヤルホテル株式会社
キーホーム株式会社
株式会社コーセーアールイー
株式会社キングダムファクトリー
株式会社空間創建
株式会社クラブ

グローバルカードシステム株式会社
グローバル・ソリューションズ株式会社
ジャパンベストレスキューシステム株式会社
GMOペイメントゲートウェイ株式会社
司法書士法人麹町総合事務所
司法書士法人新宿事務所
杉山商事株式会社
NPO法人 全世界空手道連盟 新極真会
株式会社ダイニチ
株式会社大慶地所
株式会社大建ビルテクノ
株式会社タカラ・ホールディングス
株式会社東京ウエルケア

日本和装ホールディングス株式会社
ファーストヴィレッジ株式会社
ファーストザウェブ株式会社
株式会社プライムホームセンター
株式会社マイツ
マックス・インターナショナル株式会社
株式会社マッチング・ナビ
三田証券株式会社
株式会社メイプルリビングサービス
株式会社リブアクション
株式会社リベラス
リンクアンドサービス株式会社

● 寄付者個人（五十音順・敬称略）

相浦 一成	遠藤 正博	鎌田 正彦	久保 玲士	瀬谷 達郎	長洲 謙一	横山 紀代美
秋元 隆弥	太田 孝昭	加藤 照美	桑原 宗典	高橋 康夫	新山 隆史	吉田 重久
阿部 亮	大山 隆史	菊地 智之	河本 貞子	田中 順	細川 和憲	呂 建萍
アンクル・サフ	大山 武夫	岸野 一夫	小林 英一	田野倉 淳	松原 亨	
池田 博義	岡 重訓	岸本 修治	榊原 暢宏	豊山 慶輔	諸藤 敏一	
泉 毅	岡 章元	木下 涉	佐藤 献一	中川 将利	山下 泰裕	
伊礼 竜之助	小笠原 耕司	倉田 拓也	鹿間 秀明	中川 光義	横手 信一	

※2012年7月現在

● 交流会で支援を頂いた方（順不同・敬称略）

第2回交流会（柔道体験）

山下 泰裕
井上 康生
塚田 真希
NPO法人柔道教育ソリダリティー
東海大学

第3回交流会（プロ野球マスターリーグ観戦）

大沢 啓二
西田 孝之
日本プロ野球OBクラブ

第7回交流会（大相撲観戦）

九重 貢親方
大沢 進親方
高津 義信

第11回交流会（茶道・座禅体験）

朝比奈 恵温
大沢 宗伸
桑原 宗典
呂 建萍
鎌倉円覚寺

第13回交流会（大阪研修旅行）

ユニバーサルスタジオジャパン株式会社
アンクル サフ

第14回交流会（空手体験）

緑 健児
塚本 徳臣
NPO法人全世界空手道連盟 新極真会

第15回交流会（第4回卒業式）

日本和装ホールディングス株式会社
藤田 新美
Herb（美容室）

第16回交流会（沖縄研修旅行）

白石 武治
株式会社カヌチャベイリゾート
沖縄電力株式会社
沖縄県

第17回交流会（スキー研修旅行）

岸野 悦雄
株式会社クラブ
湯沢グランドホテル
神立高原スキー場株式会社

● 当財団運営で協力者（五十音順・敬称略）

（元理事）

小川 進吾
川村 恒明
姜 裕文

（元評議員）

吉川 隆
廣田 知朗
藤田 昌久

（元選考委員）

相澤 英孝
井上 明俊
大沢 啓二

（元選考委員）

小笠原 康正
鈴木 博之
鳥飼 繁

（元選考委員）

森下 真一
八幡 匠
有山 正孝
木谷 誠一
根木 昭

ご支援いただいた皆さまへ

様々なご支援を頂いている秋元国際奨学財団の竜の子奨学生を代表しまして、感謝と御礼を申し上げます。祖国を離れ、日本での学業に励みたいと決意してから卒業まで多くの月日が経ちました。お陰様で、日本での生活どころか様々な日本文化のイベントに参加させて頂き、金銭面だけでなく、精神面も支えて頂いて、充実した生活を送っております。昨年、日本で未曾有な大地震と津波の被害に、世界中の多くの人々が、衝撃を受けたと思います。私たち竜の子奨学生は日々努力を重ねて、日本の社会と文化を通して少しでも世界中で活躍できるようになりたいです。また互いに支え合う人間になり、寄付者の皆さまをはじめ社会全体にご恩をお返しできたらと思っております。

（平成22年竜の子奨学生 東京電機大学 李 双春）

編集後記

委員長 東京電機大学 大学院 ^{リ ソウシヤン} 李 双春

私は会報誌「竜の子奨学生」第10号の編集委員長を担当させていただきました。実は、2年前も編集委員になったことがあり、当時は分担された分だけ終わらせれば良いと思っていましたが、今回は、編集委員長を務めてさせていただき責任を強く感じました。編集のプロから大変ありがたいご指導をいただきながら、他の編集委員の協力で無事に今回の作業を終えられることができ、大変満足しています。また、王皓選手の取材のとき、柔道選手の日々練習の辛さ、怪我になっても諦めず、頑張っているのを肌で感じました。常に自分を信じ、目標を忘れず、夢に向かい全身全霊で前に進んでいきたいと改めて思いました。最後に編集委員の皆様、ご協力して頂いた皆様、そしてこの貴重な経験を提供して下さった秋元国際奨学財団の方々に感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当にありがとうございました。

副委員長 東京芸術大学 ^{イ スンヒョフ} 李 丞孝

今回の会報誌では「第17回の交流会」や「卒業生近況報告」を担当させていただきました。文章を書くのが得意ではないので心配もしましたが、みんなの力を合わせて会報誌を作った経験は忘れられないと思います。また、論文の発表で第18回の交流会に参加出来ず新入生と話す機会がなかったのですが、会報誌を通してみんなの近況を知ることができ嬉しかったです。編集委員になってみたら、今まで自分が編集委員から原稿を頼まれた時にあまり協力的でなかったなあ気づき反省しました。今まで迷惑をかけてすみません！最後に、今回貴重な機会をくださった秋元国際奨学財団の方々や編集を手伝ってくださった関係者さまに感謝申し上げます。

委員 九州大学大学院 ^{チョウ プ} 張 愚

会報誌の編集作業は初めてなので、最初はかなり心配していましたが、協力を惜しまない編集委員の皆さんのお陰で、なんとか無事に作業を終えることができました。福岡に住んでいるため、交流会以外に他の奨学生と交流する機会がなかなかなかった私ですが、三回の編集会議を通して、同じ奨学生である皆さんと触れあうことができ、楽しく、素敵な思い出を作ることができました。今までの様々な経験の中で、今回の編集作業は私にとって一生の宝物になるに違いありません。

さて、竜の子奨学生たちの夢と志、いつまでも心に残る秋元国際奨学財団への思い出、これらが、今回の会報誌で読んでくださる方々に伝われば、嬉しい限りです。最後になりますが、今まで協力してくれた編集委員の皆さん、本当に、本当にありがとうございました。

委員 一橋大学大学院 ^{オウ ゲイギョウ} 王 藝凝

竜の子奨学生になってまだ四カ月ですが、会報誌の編集に参加させていただきました大変勉強になりました。「新入生紹介」と「インタビュー」を担当しましたが、新入生や在籍生と交流ができとても嬉しかったです。編集会議には残念ながら一回しか参加できませんでしたが、先輩たちや関係者の方々からいろいろサポートしていただきまして、「編集とは何か？」と分からなかった自分に勇気づけられました。文章に関する書き方だけでなく、ページのレイアウトの話と一緒に議論するなど、編集委員になることを通して、新入生の私に先輩や関係者の方々たくさん話すことができ、とても貴重な機会でした。最後に、ご協力していただいた方々に感謝いたします。



第2回編集会議の様子

委員 筑波大学大学院 ^{キム オンハ} 金 恩河

今回、竜の子奨学生になり初めて会報誌を作ってみて、みんなで力を合わせることが大事だということを改めて思いました。編集委員になる前には、会報誌がどのような過程で作られるのかわからなかったのですが、数回の会議を通して計画から仕上げまで編集委員のみんなで力を合わせての作業でした。日本語の誤字・脱字の確認を通して日本語の勉強にもなったし、編集全体の過程を通して編集とは何かも勉強できました。いつも論文で頭が回らない時期でしたが、リフレッシュもできました。「第10回会報誌の編集委員の皆様、お疲れ様でした！また、色々ありがとうございました！」



第3回編集会議を終えて



「その夢はきっと世界を変えていく」

夢 希望をかなえる為 僕たちは生きている
その夢はきっと世界を変えていく 平和のため
いろんな事があるけれども どんなときでも

作詞：竜の子奨学生

作曲：班 文林（平成21年竜の子奨学生）

仲間とともに乗り越えて 竜の子の誇りを胸に
夢 希望をかなえる為 みんなは生きている
その夢はきっと世界を変えていく かならず